

医師の漢方処方への意識とソフトウェアのニーズ調査

2024年5月

V A R Y T E X

漢方をDXする

I 調査概要

1. 調査内容

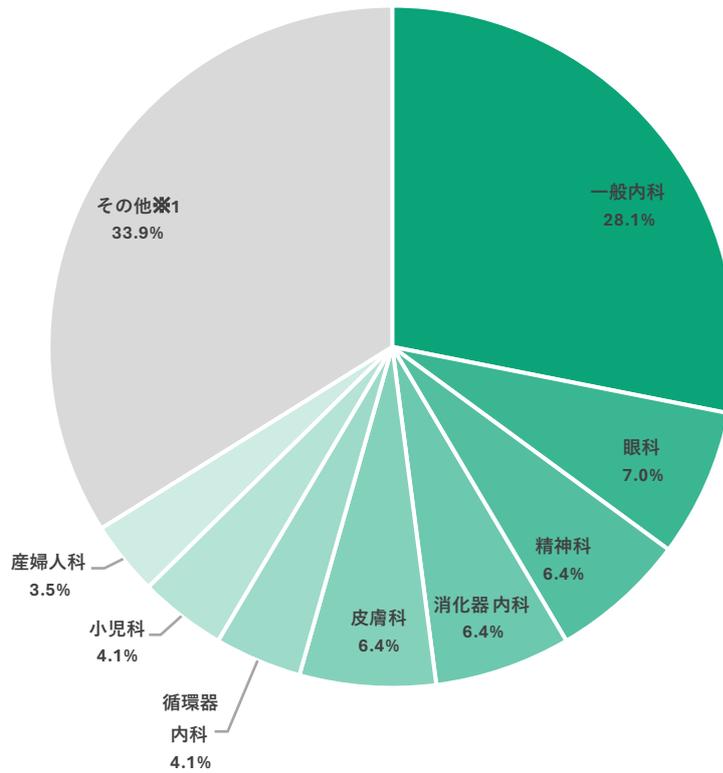
- i) 調査目的 医師の漢方処方への意識とソフトウェアのニーズ調査
- ii) 調査地域 日本全国
- iii) 調査対象 医師
- iv) 調査方法 インターネット調査
- v) 調査機関 メドピア株式会社
- vi) 実査期間 2024年3月26日（火）～29日（金）
- vii) 選別条件 下記①②をいずれも満たすこと
 - ①所属施設区分：GP
 - ②日本東洋医学会非専門医／非認定医
- viii) サンプル数 342名

2. 調査結果の見方

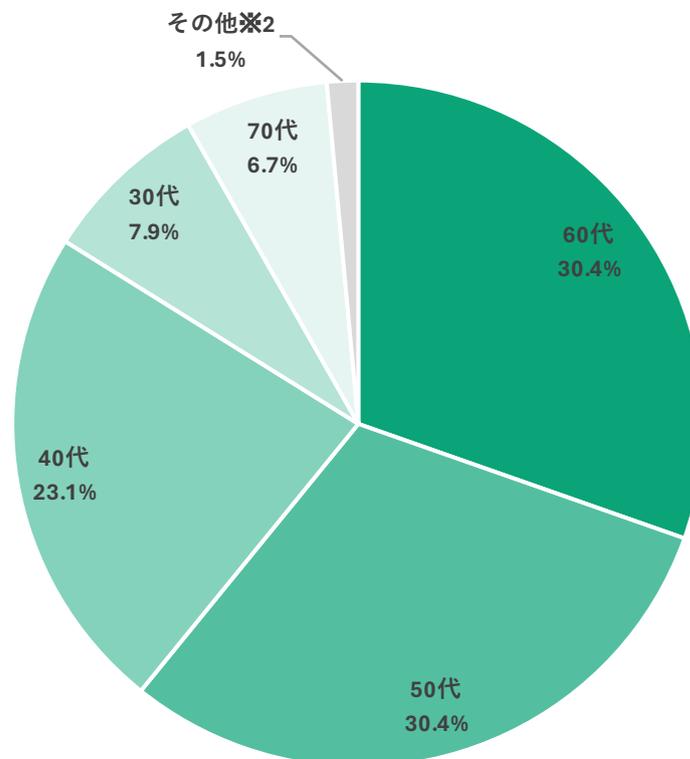
- ・「n」は各設問の回答医師数を表す。
- ・単一回答の回答割合の合計は、100%である。
- ・複数回答の回答割合の合計は、回答医師数を超えることがあるとともに、回答割合の合計は100%を超えることがある。

II 回答医師属性

診療科 (n=342)



年齢(n=342)



※1 その他には整形外科、一般外科、総合診療科ほか28診療科が含まれる

※2 その他には20代、80代、90代以上が計5名含まれる

III 調査結果

1. 漢方処方状況および漢方診療に関する考え方について

Q. 先生は、現在、漢方薬を処方していらっしゃいますか。 (n=342)

選択肢 (単一回答)	医師数	割合
漢方薬を処方している	299	87.4%
以前は漢方薬を処方していたが、現在は処方していない	29	8.5%
漢方を処方した経験はない	14	4.1%

Q. 漢方薬を処方するようになった理由を次の中から当てはまるものをすべてお答えください。 (n=299)

選択肢 (複数回答)	選択医師数	割合
西洋薬治療で効果がなかった症例で漢方治療により効果が認められたから	180	60.2%
患者さんからの要望があったから	137	45.8%
西洋薬だけの治療に限界を感じたから	133	44.5%
QOLの向上など全人的医療が出来るから	81	27.1%
エビデンスが学会などで報告されたから	74	24.8%
他の医師から勧められたから	29	9.7%
医療経済的にみて薬剤費用の軽減が図れるから	21	7.0%
その他 (自由記入) ※3	3	1.0%

※3 その他3名の回答: 「効果のある症例が存在するから」「使いやすい」「自分に使用してみて効果があったものは処方している」

Q. 先生は、漢方薬を投与する際の診断をどのようにされていますか。 (n=299)

選択肢 (単一回答)	医師数	割合
西洋医学の診断による	150	50.2%
西洋医学の診断を基本に、「証」も考慮	94	31.4%
西洋医学的診断と「証」をともに考慮	36	12.0%
「証」を基本に、西洋医学的診断も考慮	17	5.7%
「証」の診断による	2	0.7%

III 調査結果

Q. 先生が漢方を処方する際に困ることや悩むことはありますか。 (n=299)

選択肢 (単一回答)	医師数	割合
はい	252	84.28%
いいえ	47	15.72%

Q. 先生が漢方を処方する際に困ることや悩むこととして当てはまるものを全てお選びください。 (n=252)

選択肢 (複数回答)	選択医師数	割合
証に適した処方を選択できるか自信がない	136	54.0%
漢方薬の種類が多くて覚えられない	129	51.2%
漢方薬ごとの安全性情報を把握しきれていない	82	32.5%
似た名前の漢方薬の違いがわからない	77	30.6%
効果判定期間がわからない	73	29.0%
メーカー間の違いがわからない	64	25.4%
患者さんにどんな薬か聞かれて説明に困る時がある	48	19.0%
レセプトの記載方法がわからない	48	19.0%
その他 (自由記入) ※4	4	1.6%

※4 その他4名の回答: 「患者ごとに有効性・副作用にバラツキが多い」「漢方薬の適応病名が限られている。」

「供給が安定していない。欠品が多い。」 「量が多い、服薬しづらい」

III 調査結果

2. 漢方医学の学習状況について

Q. 先生は、漢方の卒後教育（入門セミナー等）を受講されたことはありますか。（n=299）

選択肢（単一回答）	医師数	割合
受講したことがある	100	33.4%
受講したことはない	199	66.6%

Q. 漢方の卒後教育を受けられた後、漢方医学を本格的に習得（専門医の取得など）しようとお考えになられたことはありますか。（n=100）

選択肢（単一回答）	医師数	割合
ある	43	43.0%
ない	57	57.0%

Q. 漢方医学を本格的に習得しようとお考えになったものの、習得に至らなかった理由をお選びください。（n=43）

選択肢（複数回答）	選択医師数	割合
勉強する時間がないため断念した	22	51.2%
臨床研修施設が近くにないため断念した	12	27.9%
本格的に習得すべく、現在勉強中である	9	20.9%
漢方の勉強が難しく断念した	8	18.6%
その他（自由記入）	0	0.0%

Q. 漢方医学を本格的に習得しようとお考えにならなかった理由をお選びください。（n=57）

選択肢（複数回答）	選択医師数	割合
勉強する時間がないから	34	59.7%
資格取得の必要性を感じないから	24	42.1%
漢方の勉強が難しいから	21	36.8%
その他（自由記入）	0	0.0%

III 調査結果

3. 漢方業務支援ソフトウェアのニーズについて

Q. もしも患者さんに問診に答えてもらうだけで患者さんの体質に合った漢方薬を提示してくれる診断支援プログラムがあったら使ってみたいですか。(n=342)

選択肢（単一回答）	医師数	割合
使ってみたい	102	29.8%
機能次第では使ってみたい	164	48.0%
料金次第では使ってみたい	38	11.1%
使ってみたいと思わない	38	11.1%

Q. どういった機能があれば使ってみたいですか。(n=164)

選択肢（複数回答）	選択医師数	割合
患者さんの体質・状態（証）を提示する機能	122	74.4%
患者さんの体質に合わせた生活指導（養生法）をサポートする機能	76	46.3%
処方したい漢方薬の近隣薬局の在庫状況を確認できる機能	23	14.0%
診察した数日後、患者さんにメッセージアプリ等で質問を自動送信し、回答を確認できる機能	19	11.6%
その他（自由記入）※5	1	0.6%

※5 その他1名の回答：「明確な効果」